

Sustainability Open Knowledge-Action Program by Connecting Multi-stakeholder (SOKAP-Seeds) 第二回採択課題概要

1. Symmetry Breaking and the Development of Human Right-Handedness



研究代表者
情報科学研究科
特任助教
ZHOU, Yuqin

This project studies the origins and societal impact of right-handedness, aiming to promote inclusivity and sustainability. Though right-handedness is widespread, its causes and effects on human society are underexplored. By combining data from social sciences and mathematical models, the research examines how handedness relates to human cooperation, tool use, and cultural development. The project brings together experts from the humanities, social sciences, and engineering for a comprehensive view of handedness. International partnerships will further amplify the project's impact, guiding inclusive technology design, equitable education, and healthcare policies for a more inclusive and sustainable society.

2. 自然災害後の人間のレジリアンスを可視化する芸術文化的実践: 手すき和紙工房・潮紙(仙台)を中心に



研究代表者
文学研究科
准教授 小松原 織香
KOMATSUBARA, Orika

災害が発生すると、報道では傷ついた被災者の姿がクローズアップされ、痛々しさが強調される。他方、苦しい経験をした人たちは、そこから立ち上がろうとする力を持っている。本研究は、そうした被災者の強さや創造性に焦点を当て、レジリアンス（復元力）を持つ持続可能なコミュニティを構想することを目的とする。具体的には、宮城県の和紙工房・潮紙の塚原氏の活動を取り上げる。塚原氏は、本学の材料工学の研究者、栗田氏とともに新素材開発に取り組んできた。工房のある地域の歴史、塚原氏の被災経験とその後、栗田氏との出会いなどを、理系・文系研究者が共同で研究する。また、アーティストの協力を得て、被災者のレジリアンスを芸術作品で表現する。

3. サステイナブルな日本型弔いシステムの構想に向けた基礎研究



研究代表者
文学研究科
准教授 問芝 志保
TOISHIBA, Shiho

死者供養を宗教文化の中心としてきた日本では、今後の人口減少時代を見据えたサステイナブルな「弔う／弔われる」システムをいかに構想していくかが課題となるだろう。その構想の第一歩として、本プロジェクトはまず近現代日本の事業型霊園、とりわけ大仏などの巨大建築をとまなう霊園開発の歴史的経緯と、その現代的な社会課題を明らかにする。具体的には、顕著な特徴を示す事例を複数ピックアップし、代表者（問芝・宗教社会学）と共同研究者（五十嵐太郎教授・建築学）が連携して、歴史社会的諸条件、宗教意識・地域習俗、景観・空間構造・デザインなど観点からフィールド調査を行う。そして得られた学術的知見を、将来展望の基盤として提示することを目指す。